



# 環境報告・環境会計報告

2016年度

eDCグループ(本社)

## 目次

環境活動開始 .....	1
関連諸規定 .....	1
推進体制 .....	2
ISO14001 .....	2
社員教育 .....	2
資源物・ゴミの分別・廃棄 .....	3
機密書類のエコ処理 .....	3
電力使用量の削減 .....	3
グリーン発電・CO2 削減(専門学校) .....	4
その他の省エネルギー活動 .....	4
環境投資と経費 .....	6
eDCグループ .....	7

**eDCグループ**

株式会社エスシーシー  
宇宙技術開発株式会社  
学校法人電子開発学園九州

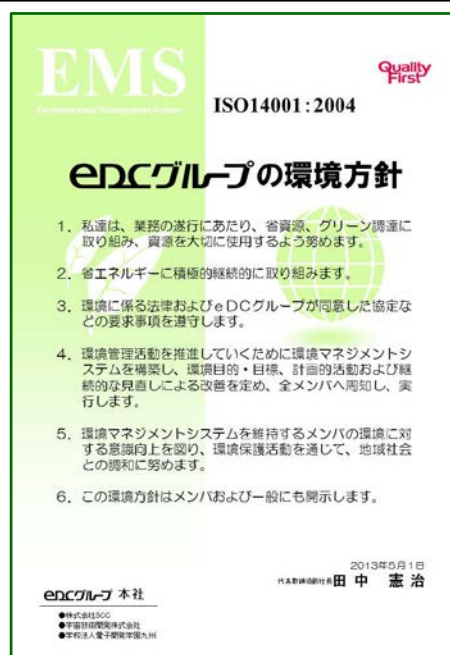
2005年5月、eDCグループは、環境保全活動の国際規格である「ISO14001」の認証を取得しました。

以来、環境と共存する企業をめざして努力を続けています。

## 環境活動開始

### 環境方針

- 私達は、業務の遂行にあたり、省資源、グリーン調達に取り組み資源を大切に使用するよう努めます。
- 省エネルギーに積極的継続的に取り組みます。
- 環境に係る法律およびeDCグループが同意した協定などの要求事項を順守します。
- 環境保護活動を推進していくために環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・目標、環境活動および継続的な見直しによる改善を定め、全メンバーへ周知し、実行します。
- 環境マネジメントシステムを維持するメンバーの環境に対する意識向上を図り、環境保護活動を通じて、地域社会との調和に努めます。



## 関連諸規定

2004年12月、環境マネジメントシステムを確立・維持し、継続的に改善することを目的に「環境マニュアル」を制定しました。また、2004年12月に環境保全活動に自主的に取り組み、社会的責任を果たす目的で「環境マネジメントシステム標準文書」を制定しました。

## 推進体制

- ・2005年1月、eDCグループ本社の環境保全に関する業務を統括管理するために、代表取締役をトップマネジメントとして、EMS管理責任者、EMS推進委員で構成する体制をスタートさせました。
- ・トップマネジメントは、eDCグループの各社(株式会社エスシーシー:SCC、宇宙技術開発株式会社:SED、学校法人電子開発学園九州:学園)にEMS管理責任者を任命し、EMS管理責任者が環境保全活動に関する職務を行っています。
- ・EMS管理責任者は、環境保全活動の実施状況を監査するため、内部環境監査員をおき、年1回、内部環境監査を実施しています。
- ・グループ内には、EMS管理責任者、EMS推進委員で組織された「EMS推進委員会」があります。「EMS推進委員会」は月1回、EMS管理責任者により開催され、環境目的や環境目標の設定し、実施結果の評価などを行っています。

## ISO14001

- ・2005年5月26日、eDCグループ(SCC、SED、学園)の管理部門としてISO14001:1996の認証を取得しました。
- ・2006年4月27日、eDCグループ(SCC、SED、学園)の本社へ対象部門拡大と新年度規格対応にてISO14001:2004の認証を取得しました。
- ・2017年5月、4回目の登録更新をすると共に、IOS14001:2015に移行しました。



登録事業所:eDCグループ本社

## 社員教育

- ・入社時、配属時に社内の集合教育やe-learningで教育を実施し、環境に対する意識づけを図っています。
- ・グループイントラネットにISO14001専用ページを設け、方針、目的、目標等の社内周知を行っています。

## 資源物・ゴミの分別・廃棄

各事業所の所在する自治体の条例を参考に、一般事業所の産業廃棄物処理法に基づき、物資源物とゴミを分別し、資源物はリサイクルへ、ゴミは適正な方法で廃棄しています。



キャンペーン・ポスター:「資源物・ごみの分け方・捨て方」

## 機密書類のエコ処理

本社ビルで発生する機密書類の廃棄には、日本パープル社の「保護(まもる)くんサービス」を利用しています。自社内のシュレッダーによる屑の発生をゼロにするとともに、委託した日本パープル社が、厳重なセキュリティ対策の下、オリジナル大型特殊破碎機で紙の繊維に配慮した破碎により機密抹消処理した後、適切なりサイクル処理を実施しています。また、別館ビルでも同様に活動しています。



<地球環境保護への貢献> 2016年4月～2017年3月

本社ビル: SED、SCC

別館: SCC

・森林伐採抑制量: 75本

・森林伐採抑制量: 100本

・CO2 排出抑制量: 2,167kg

・CO2 排出抑制量: 2,890kg

## 電力使用量の削減

2010年度<sup>※</sup>比15%削減を目標として電力使用量の削減に取り組んでいます。

グループの商品である環境&設備モニターシステム(E2Moni: イーツーモニ)を利用し社内の使用電力量を見える化し、電力使用量の削減に役立っています。

社員の活動で影響する電力使用量として、執務フロアの営業日のみの値を監視しています。

執務フロア営業日のみ

	2012年度 <sup>※</sup>	2015年度	削減率
本社ビル	471,530kwh	402,871kwh	-15%

※E2Moniでは2010年度のデータが取得できていません。

2012年度が2010年度比-15%に近いので、2012年度の値を目標にして活動しています。

## <E2Moni の画面イメージ>



## グリーン発電・CO2 削減(専門学校)

専門学校では、これまでに合計11台のハイブリッド車「プリウス」「プリウスα」を導入し、各校へ配備しました。

- 新潟情報専門学校
- 名古屋情報メディア専門学校(2台)
- 広島情報専門学校
- KCS北九州情報専門学校
- KCS福岡情報専門学校(2台)
- KCS大分情報専門学校(2台)
- KCS鹿児島情報専門学校(2台)

## その他の省エネルギー活動

eDCグループでは、TV会議システムを利用した複数拠点の会議を開催しています。各事業所・学校で少人数から、大人数で開催する会議などTV会議設備を開催人数に合わせた部屋に移動して、開催しています。

このTV会議設備での会議システムは、社内やグループ内の会議だけでなく、お客様との会議

でもTV会議設備を利用して、移動に伴うエネルギーを削減しています。

TV会議設備は、電子開発学園の各専門学校(10校)、宇宙技術開発株式会社の各事業所(3事業所)、株式会社エスシーシーの各支店(4支店)でインターネット通信を利用して実施しています。時間と移動費、作業効率の向上に役立っています。

## 環境投資と経費

eDC グループでは、環境省の環境会計ガイドラインに基づく独自の環境会計形式を設定し、環境会計として明確に把握できる範囲でコスト集計を行っています。

環境会計リストとしては課題もありますが、今後も検討を進め、環境マネジメントにおける効果的な活用をめざしていきます。

(単位 千円)

環境ガイドライン分類	主な取り組み	2016 年度	
		投資	費用
事業エリア内コスト		5,000	3,718
地球環境保全コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバの仮想化</li> <li>・TV 会議システム増設・入換</li> <li>・省電力化機器導入・入換</li> <li>  会議室用プロジェクタ入換</li> <li>  西葛西寮 冷蔵庫・洗濯機入換</li> <li>・環境改善機器導入・入換</li> <li>  空気清浄器設置</li> <li>  加湿器設置</li> </ul>	5,000	1,000
資源循環コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス内産業廃棄物</li> <li>  専門埋立業者に廃棄委託</li> <li>  (機密保持契約締結)</li> <li>・使用済みコピー用紙など</li> <li>  再生業者に引き渡し</li> <li>  (機密保持契約締結)</li> <li>・エコキャップ収集(送料負担分)</li> </ul>	0	2,718
上・下流コスト	グリーン購入	0	600
管理活動コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境マネジメントシステム</li> <li>  認証取得, 教育コスト</li> <li>  システム運用コスト</li> <li>・電力使用量監視・測定コスト</li> <li>・電子申請システム構築</li> </ul>	1,880	18,000
合計		6,880	22,318



## eDCグループ

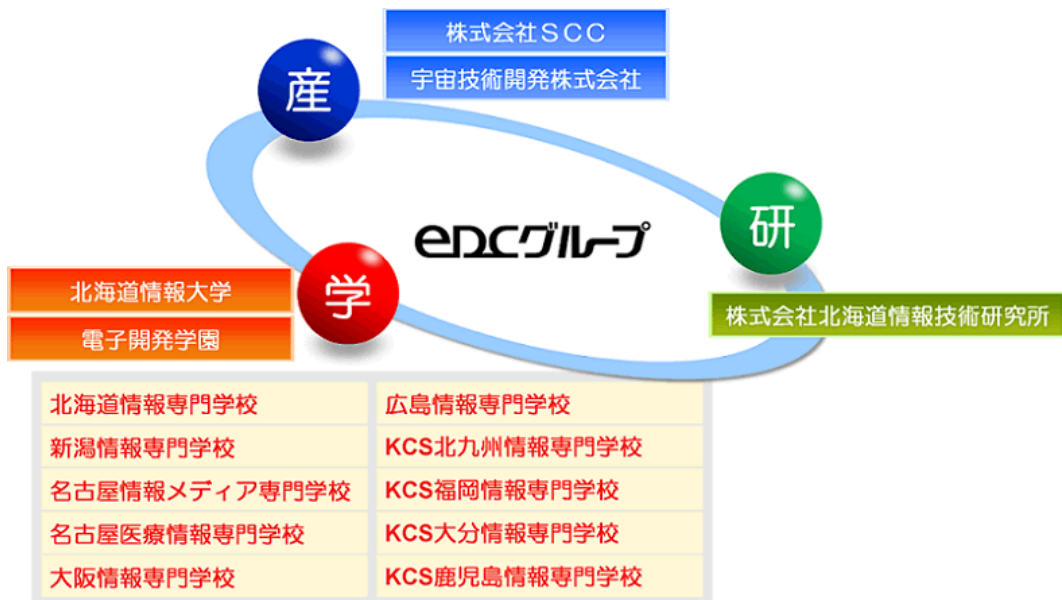
### —「産・学・研」の機能を併せ持つ複合グループ—

eDCとは「Electronics Development group Company」の略。

システム開発を手掛ける【SCC:株式会社エスシーシー】と宇宙開発の先端を担う【SED:宇宙技術開発株式会社】から構成される『産業』、情報化社会に向けて確かな人材を育成・輩出する【HIU:北海道情報大学】【EDC:電子開発学園】からなる『学校』、そして、マルチメディアを活用した情報通信の技術開発を行っている【HiIT:北海道情報技術研究所】が挑む『研究』、これら3つの領域(産・学・研)のシナジー効果により、eDCグループは情報サービス産業の進化を促す”切り札”的な存在となるべく、常に先駆的な活動を展開しています。

### —「産・学・研」のシナジーと、それぞれの色—

eDCグループの各法人は、産・学・研それぞれの強みを活かし、そして産・学・研のシナジーにより、多くの成果を生みながら、次々と新しい価値創造を果たし続けています。



eDCグループの3領域「産・学・研」を象徴するカラー「青・赤・緑」にはそれぞれ【青＝技術・信頼】【赤＝教育・情熱】【緑＝未来・創造】という意味が込められています。また、この3色は光の三原色でもあり、すべての色が三原色から成っているという「企業の無限の可能性」をイメージ。さらには三原色が合わさると太陽光線と同じ白色光(透明)となることから、「産学研協同」というグループの基本理念も表現しています。



2017年5月  
発行:EMS 推進委員会